表1.今回参考にしたトラベラーズワクチンに関する臨床開発ガイドラインのリスト

No	対象疾患	タイトル	発出元	参考になるポイント
1	全体	Guidance for Industry General Principles	FDA	非流行地域での承認に必要な事項についての要求事項が明
		for the Development of Vaccines to Protect		確に記載されている。ただし、本ガイドラインでは米国人デ
		Against Global Infectious Diseases		ータは申請に必要とされていないが、本邦では日本人の免疫
				原性成績を要求した事例があることも考慮する必要がある。
2	Dengue	Guidelines for the production and quality	WHO	抗体陽転を誘導する4価ワクチンのそれぞれの血清型の
		control of candidate tetravalent dengue		PFU 又は FFU の免疫性を賦与する用量は、用量反応試
		virus vaccines (live)		験で確立すべき。 plaque forming unit 又は focus
		WHO Technical Report Series, No. 932,		forming unit の血清型間の干渉作用や相乗作用は、事前
		2006 Annex 1		に評価すべき (A.2.3¶1)
3	Dengue	Guidelines on the quality, safety and	WHO	非流行地域の接種前中和抗体が検出されない集団の免疫
		efficacy of dengue tetravalent vaccines (live,		原性評価 (C.2.2¶2)
		attenuated)		第 相など初期の臨床試験はフラビウイルスに対してナ
		Proposed replacement of Annex 1 of WHO		イープな健康成人とすべき。非流行地域居住者が望まし
		Technical Report Series, No. 932		l1(C.3.1¶2)
				発症予防効果を評価した手段と特徴(例えば、民族や他
				のフラビウイルスへの暴露状況等) が異なる集団に有効
				性が外挿できるか慎重な評価が必要 (C.3.3.7¶7)
				他の渡航者ワクチンとの相互作用の評価 (C.4¶4)
				個々の国で信頼性低い小規模な臨床試験が多数必要とな
				ることは避けるよう NRA と企業が協力すべき (C.4¶5)

4	Japanese	Proposed revision: Recommendations for	WHO	新規日本脳炎ワクチンの免疫原性評価は、接種前後の血
	encephalitis	Japanese Encephalitis Vaccine		清中和抗体価に基づくべき。 plaque reduction
		(inactivated) for human use		neutralization test (PRNT)は最も一般的に用いられる
		Expert Committee on Biological		中和抗体測定法 (C.2.1 ¶ 1)
		Standardization Geneva, 8-12 October 2007		免疫反応の評価は、抗体陰性の被験者がワクチン接種後、
		Standardization deficya, 6 12 October 2007		少なくとも 1:10 の PRNT50 に達した割合に基づくべ
				き (C.2.2¶1)
				流行地域では、他のワクチン接種又は事前曝露により、
				既に抗体陽性である被験者に対し、新規ワクチンの安全
				性及び免疫原性のデータを得ることが重要だろう(C.2.2
				¶4)
				流行地域では、抗体保持は、日本脳炎ウイルス及び/又は
				フラビウイルスの自然曝露によるブースターと同様に、
				過去のワクチン接種を反映するかもしれないため、抗体
				保持に関するデータは、非流行地域やフラビウイルス曝
				露リスクが低い/高い地域へ外挿すべきではない(C.2.2
				¶6)
				新規ワクチン開発には、既承認で広く用いられているワ
				クチンとの免疫原性比較試験を少なくとも 1 つ含めるべ
				き (C.2.4¶1)
5	Japanese	WHO/BS/2012.2199:Guidelines on the	WHO	流行地域の抗体の持続性のデータは、日本脳炎ウイルス
	encephalitis	quality, safety and efficacy of Japanese		への暴露によるブーストやワクチン接種歴の影響が反映
		encephalitis vaccine (live, attenuated) for		されているため、非流行地域やフラビウイルス暴露リス

		human use		クが異なる地域には外挿できない(C.2.2¶6)
		Proposed Revision of WHO TRS No. 910		渡航者ワクチンとしての使用を想定する場合の接種スケ
		(Annex 3)		ジュールを検討する必要がある(C.2.3¶3)
				他のフラビウイルスに対するワクチンとの同時接種の影
				響は特に注意が必要(C.2.5¶2)
				渡航者等、流行地域に比し感染リスクが低い集団では、
				ワクチン接種のリスク - ベネフィットが異なる(C.3¶
				8)
				発症予防効果 effectiveness はワクチン接種歴やウイル
				スの暴露による免疫獲得状態の影響を受けるため、他の
				地域へ外挿できない(C.4b)
6	Malaria	WHO/BS/2012.2186:Guidelines to evaluate	WHO	現在のところ、有効性に相関することが知られているマ
		recombinant malaria vaccines targeting the		ラリアワクチンに対する免疫反応の動物モデルや in
		pre-erythrocytic and blood stages of		vitro アッセイはない。マラリアワクチンの免疫原性を評
		Plasmodium falciparum		価するほとんどの試験で、抗原特異的な IgG を測定する
		Proposed guidelines		ELISA が用いられている (C.2.1.1 ¶ 3)
				ワクチン接種群と非接種群の抗体レベルを比較するため
				の用量反応を検討する基準として、抗体陽性率、GMCs
				又はGTMs及びRCDsといった項目についての評価を考
				慮すべき (C.2.1.2¶1)
7	Cholera	Guidelines for the production and control	WHO	血清殺ビブリオ抗体は予防免疫反応の間接的な指標にな
		of inactivated oral cholera vaccines		るかもしれない(2.5)
		TRS 924, 2004, Annex 3		流行地域の殺ビブリオ抗体はワクチン接種前に相対的に

				高く、経口ワクチン接種後の抗体価上昇は、非流行地域と比較して穏やか(2.5) コレラ予防の唯一の直接的な指標は、小腸の局所的な分泌 IgA であるが、大規模な臨床試験では明らかに実際的な指標ではない。そのため、血清殺ビブリオ抗体はヒトの免疫反応の指標として現在得られる最も有用な指標である(2.5)
8	全体	感染症ワクチンの臨床試験ガイドライン	MHLW	臨床開発における留意事項の項目分けが参考となる。
		平成 22 年 5 月 27 日薬食審査発 0527 第 5 号	日本	
		厚生労働省医薬食品局管理課長通知		
9	Hepatitis B	Recommendations to assure the quality,	WHO	・Recombinant hepatitis B vaccine の開発に関するガイド
		safety and efficacy of recombinant hepatitis		ライン。
		B vaccines		・免疫原性は anti-HBAg antibody の測定で判断する。
		WHO Technical Report Series, No 786,		Primary series 終了後 10mIU/ml 以上の増加で有効とする。
		Annex 2 and No 889, Annex 4. 2010		・新ワクチンの開発には既存ワクチンとの比較が必要。
10	Yellow fever	Recommendations to assure the quality,	WHO	・Live attenuated yellow fever vaccine の開発に関するガイ
		safety and efficacy of live attenuated yellow		ドライン。
		fever vaccines		・免疫原性は中和抗体価の測定で判断する。陽転あるいは4
		WHO Technical Report Series, No 872,		倍以上の増加で有効とする。
		Annex 2. 2010		・新ワクチンの開発には既存 17Dワクチンとの比較が必要。
				また、流行地および非流行地の住民で評価すべき。
11	Meningococcal	Recommendations to assure the quality,	WHO	・group A meningococcal conjugate vaccine の開発に関する
	meningitis	safety and efficacy of group A		ガイドライン。

		1		A 応 医性は い M. A. CD A (C
		meningococcal conjugate vaccines		・免疫原性は anti-MenA SBA(Serum bacterial antibody)
		WHO Technical Report Series, No 962,		titer の測定で判断する。4 倍以上の増加で有効とする。
		Annex 2. 2011		ELISA 抗体価の測定でも代用できる。
				・新ワクチンの開発には既存の unconjugate ワクチンとの比
				較が必要。
12	Japanese	Recommendations for Japanese	WHO	・Inactivated Japanese encephalitis vaccine の開発に関す
	encephalitis	encephalitis (inactivated) vaccine for		るガイドライン。
		human use (Revised 2007)		・免疫原性は中和抗体価の測定で判断する。陽転か4倍以上
		WHO Technical Report Series, No 963,		の増加で有効とする。
		Annex 1. 2011		・新ワクチンの開発には既存ワクチンとの比較が必要。また、
				高度流行地、流行地、非流行地の住民で評価すべき。
13	Typhoid fever	Guidelines on the quality, safety and	WHO	・Vi polysaccharide conjugate typhoid vaccine の開発に関
		efficacy of Vi polysaccharide conjugate		するガイドライン案。
		typhoid vaccine		・免疫原性は anti-Vi IgG の ELISA 抗体価で判断する。接
		WHO 2013 Draft		種後 28 日の抗体価が 3.5EIU 以上で有効とする。
				・新ワクチンの開発には既存の unconjugate ワクチンとの比
				較が必要。
14	Rabies	Rabies vaccines: WHO position paper	WHO	・Rabies vaccines (cell-culture および embryonated egg)
		Weekly Epidemiological Record No32, 2010,		に関する WHO の見解。
		85:309-320		・免疫原性は本来なら暴露後接種の予防効果で判定。中和抗
				体価(viral G protein に対する)の測定でも代用できる。抗
				体価が 0.5IU/ml 以上で有効とする。
15	Hepatitis A	WHO position paper on hepatitis A vaccines	WHO	・Hepatitis A vaccines(inactivated および live attenuated)

		– June 2012		に関する WHO の見解。エビデンスレベルも明記。
		Weekly Epidemiological Record No28-29,		・免疫原性は抗体価の測定で判断。10-33IU/ml 以上で有効
		2012, 87:261-276		とする。
16	Tick-born	Vaccines against tick-born encephalitis:	WHO	・Tick-born encephalitis (inactivated) に関する WHO の
	encephalitis	WHO position paper		見解。
		Weekly Epidemiological Record No24, 2011,		・免疫原性は中和抗体価の測定で判断。10IU/ml 以上で有効
		86:241-256		とする。
17	全体	Immunization Programs for Infants,	IDSA	IDSA のワクチンガイドライン発表後のワクチン(トラベ
		Children, Adolescents, and Adults: Clinical		ラーズ以外も含む)の臨床試験についての総説。エビデン
		Practice Guidelines by the Infectious		スレベルをつけた上での記述がされているため、臨床試験
		Diseases Society of America		を考える際の参考になると考える。
		Clinical Infectious Diseases 2009,		
		49:817–40		
18	Malaria	Guidance on the evaluation of <i>Plasmodium</i>	WHO	マラリアワクチンに関する臨床試験の stage ごとの組み
		vivax vaccines in populations exposed to		立て方、症例の選定や効果、安全性の評価法や解析につい
		natural infection		て記載されており、臨床試験を組む際の参考になると考え
		<u>Vaccine 2009, 27: 5633–5643</u>		る。
19	Malaria	Guidelines and considerations for testing		妊婦に対するマラリアワクチンの臨床試験についての論
		malaria vaccines in pregnant women		文。
		Human Vaccines 2010, 6: 21-26		

^{*}本表に示すトラベラーズワクチンの臨床開発ガイドラインの資料は本研究班「平成 25 年度総括・分担研究報告書」裏表紙に貼付した DVD に収載しているので参考にされたい。